

いもち病、紋枯病対策について

病害が発生したら**初発で防除を行う事が重要**です。ほ場をよく観察して、病斑を確認した場合は
基幹防除前でも、早急に補正防除を実施しましょう。

使用する薬剤は、稲作暦や下記を参考に使用時期や使用回数を確認して、選択してください。

いもち病

いもち病は直接的な減収要因となる重要病害のひとつです。いもち病が発生しやすい条件下では、防除が遅れるとそのほ場だけでなく地域(周辺2km程度)に蔓延します。

【対策】

- ①いもち病に効果のある箱施薬剤を使用する(重要)
- ②老化苗やいもち病に感染した苗を移植しない
- ③置き苗(補植用)は補植が終わり次第直ちに処分する(ひっくり返す)
- ④葉いもち防除は発生初期、穂いもち防除は出穂直前に実施する



置き苗から本田へのいもち病侵入

名称	使用量	使用回数	使用時期(補正)
コラトップ ジャンボP	10～13パック/10a	2回まで	葉いもち: 初発20日前～ 初発時 穂いもち: 出穂30～5日前
ノンブラス フロアブル	1000倍 水量60～150L/10a	2回まで	<u>出穂直前</u>

紋枯病

紋枯病は葉鞘の水分上昇を妨げ、倒伏しやすくすることで減収の要因となります。発生は最高分げつ期～幼穂形成期の頃から見られ始め、気温の上昇と共に病斑の進展も早くなります。

菌は土壌中で越冬することから、前年度発生した圃場は要注意です。

【対策】

- ①施肥基準を守り、窒素肥料を多用しない
- ②株間湿度が高まらないように、密植栽培は避ける
- ③病斑の進行がみられる場合は出穂2週間～10日前に補正防除を行う。

病斑



名称	使用量	使用回数	使用時期(補正)
バリダシン 液剤5	1000倍 水量60～150L/10a	5回まで	<u>出穂2週間</u> <u>～10日前</u>